

有限会社 坂本建材土木

2023 年度 環境経営レポート

(対象期間: 2022年 12月～2023年11月)



®環境省
エコアクション21
認証番号0012966

作成日： 2024年2月22日

有限会社 坂本建材土木

環境経営方針

有限会社坂本建材土木は、持続可能な社会の実現を目指し、一般土木工事の施工を通じて 地球温暖化の緩和への取り組みや、地域の環境活動に自主的・積極的に取り組みます。また、全従業員が参画し、環境負荷の軽減を自主的・積極的に取り組みます。

＜環境保全への行動指針＞

1. 環境関連法規制や当社が約束したことを順守します。
2. 次の事項について環境経営目標・環境経営計画を定め、継続的な改善に努めます。
 - ①電力及び燃料の二酸化炭素排出量の削減
 - ②廃棄物排出量の削減及び再資源化の推進
 - ③水使用量の削減
 - ④工事の施工において環境配慮を推進します
3. 環境への取り組みを環境経営レポートとしてとりまとめ公表します。
4. この環境経営方針は、全従業員に周知・徹底します。

制定日：2019年7月1日

代表取締役

坂本 幸誠

□組織の概要

(1) 名称及び代表者名

有限会社 坂本建材土木
代表取締役 坂本 幸誠

(2) 所在地

本 社 〒669-6813 兵庫県美方郡新温泉町丹土 6 6 4 - 1 (登記上)
事務所 〒669-6801 兵庫県美方郡新温泉町井土 6 7 7

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者 坂本 幸誠
連絡担当者 坂本 誠宏 TEL : 0796-92-2127

(4) 事業内容

土木工事業

(5) 事業の規模

売上高 : 5 2 3 百万円 (2 0 2 3 年度)

	本社 (事務所)
従業員数	1 0 名
延べ床面積	8 5 m ²

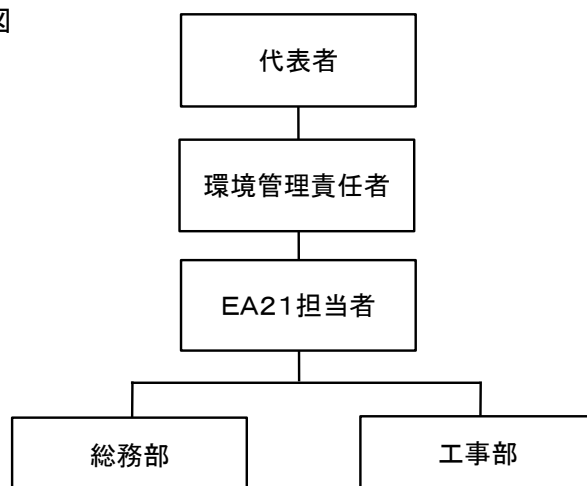
(6) 事業年度

12月～ 11月

□認証・登録の対象組織・活動

登録組織名 : 有限会社 坂本建材土木
サイト : 本社、事務所
対象外 : なし
活動 : 土木工事業

実施体制図



	役割・責任・権限
代表者(社長)	・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備 ・環境管理責任者を任命 ・環境経営方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 ・環境経営目標・環境経営計画書を承認 ・代表者による全体の評価と見直しを実施 ・環境経営レポートの承認
環境管理責任者	・環境経営システムの構築、実施、管理、 ・環境関連法規等の取りまとめ票を承認 ・環境経営目標・環境経営計画書を確認 ・環境経営の取組結果を代表者へ報告・ ・環境経営レポートの確認
EA21 担当者	・環境管理責任者の補佐、EA21推進委員会の事務局 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 ・環境経営目標、環境経営計画書原案の作成 ・環境経営の実績集計 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境経営レポートの作成、公開(事務所に備付けと地域事務局への送付)
部門長	・自部門における環境経営方針の周知 ・自部門の従業員に対する教育訓練の実施 ・自部門に関連する環境経営計画の実施及び達成状況の報告 ・特定された項目の手順書作成及び運用管理 ・自部門の特定された緊急事態への対応のための手順書作成 試行・訓練を実施、記録の作成 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	・環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

□主な環境負荷の実績

項 目	単位	2021年度	2022年度	2023年度
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	264,318	359,224	434,813
廃棄物排出量				
一般廃棄物量排出量	k g	120	89	88
産業廃棄物排出量	トン	39	100	103
水使用量	m ³	126	122	129

※電力の二酸化炭素排出量換算値：0.334kg-CO₂/kWh（関西電力2018年、調整後排出係数）

※二酸化炭素総排出量には、灯油、液化石油ガス（LPG）含む

□環境経営目標及びその実績

年 度 項 目		基準値 (2018年度)	2023年度		2024年度	2025年度
		(基準年度)	(目標)	(実績)	(目標)	(目標)
電力の二酸化炭素排出量 削減（事務所）	kg-CO ₂	3,218	3,089	3,522	3,089	3,057
	達成率			87.7%		
	基準年比	(2018年度)	96.0%	109.4%	96.0%	95.0%
ガソリンの二酸化炭素排 出量削減 （事務所）	kg-CO ₂	38,948	35,053	18,444	33,106	35,053
	達成率			190.1%		
	基準年比	(2018年度)	90.0%	47.4%	85.0%	90.0%
軽油の二酸化炭素排出量 削減 （現場）	kg-CO ₂	331,894	318,618	405,462	321,937	318,618
	達成率			78.6%		
	基準年比	(2018年度)	96.0%	122.2%	97.0%	96.0%
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO ₂	374,060	356,761	427,428	359,098	355,357
	達成率			83.5%		
		(2018年度)	96.0%	114.3%	96.0%	95.0%
一般廃棄物の削減	kg	91	87	88	86	86
	達成率			99.3%		
	基準年比	(2018年度)	96.0%	96.7%	95.0%	95.0%
産業廃棄物の削減	t	53.80	52	103.5	52.19	51.65
	達成率			49.9%		
	基準年比	(2018年度)	96.0%	192.4%	97.0%	96.0%
水使用量の削減	m ³	156	150	129	151	150
	達成率			116.1%		
	基準年比	(2018年度)	96.0%	82.7%	97.0%	96.0%
施工における環境配慮			環境配慮	達成	環境配慮 活動	環境配慮 活動

※化学物質の使用はないので目標に設定しません

□環境経営計画及び取組結果とその評価、次年度の取組内容

◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

取り組み計画	達成状況	評価（結果と次年度の取組内容）
電力による二酸化炭素排出量の削減（事務所）		
数値目標	×	数値目標は達成できなかったが、節電意識は浸透している。事務所1階作業場の水銀灯を全てLED照明へ更新を行ったため、電力削減・作業効率アップが期待される。引き続き節電に努める。
・空調温度の適正化（冷房28℃ 暖房20℃）	◎	
・昼休みの消灯	△	
・不要照明の消灯	○	
・不要時のパソコン電源OFF	◎	
ガソリンによる二酸化炭素排出量の削減（事務所）		
数値目標	◎	会社から近接した現場が多かったことが目標達成の要因と考えられる。適度な車間距離を保つゆとりある運転を意識するとともに、日常の整備や点検も引き続き行う。
・エコドライブの実践	○	
・効率的なルートで移動	◎	
軽油による二酸化炭素排出量の削減（現場）		
数値目標	×	現場での大型重機の稼働時間が大幅に増加した事と、世界的な原油価格高騰が続き、数値目標は大幅に未達となった。低燃費型機械の使用や排気口の清掃・定期点検等は引き続き行い、二酸化炭素排出削減に努める。
・エコドライブの実践	○	
・効率的なルートで移動	○	
・積載オーバーをしない	◎	
一般廃棄物の削減		
数値目標	×	社内連絡の電子化が根付いてきたように思う。裏紙使用や、マイカップの持参も引き続き行い、廃棄物の減量に取り組みたい。
・分別の徹底	○	
・裏紙使用	◎	
産業廃棄物の削減		
数値目標	×	処分費の比率が高い工事を受注施工した事が数値の増加に繋がっている。
・発生量の抑制	×	
水使用量の削減		
数値目標	○	現場事務所が増え、社内職員常駐人員が減少したことが目標達成の要因の一つと考えられる。トイレのレバーの大きさを適切に使い分けたり、車両洗車前に泥を落としてから行うなど、引き続き節水に努める。
・節水表示	○	
施工における環境配慮		
低騒音・低振動型・排ガス対策機械の使用	◎	低騒音、低排出ガスの建設機械での施工を行っている。また資材等も残余がないよう適切な在庫管理を行う。
ICT対応機械を使用した施工	◎	

※数値目標については、「○」「×」で評価する。

□環境関連法規等の遵守状況及び違反訴訟等の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）	遵守状況
廃棄物処理法	一般廃棄物（分別排出） 産業廃棄物（建設廃材の分別） （委託契約書の締結、マニフェスト管理）	良
騒音規制法	特定建設作業届出・敷地境界 85 d B	良
振動規制法	特定建設作業届出・敷地境界 70 d B	良
フロン排出抑制法	業務用空調機、バックホウ（簡易点検の記録・保管）	良
浄化槽法	浄化槽、定期点検	良
資源有効利用促進法	パソコン他	良
建設リサイクル法	発注者への計画等説明書と完了報告書 下請負者への告知書 知事への届出書	良

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。
なお、関係当局よりの違反の指摘、訴訟等はありませんでした。

□代表者による全体の評価と見直し、指示

売上高の増加により目標を達成していない項目もいくつかあったが、社内全体としては一人一人の環境に対する意識が高まっている。2024年度以降の施工水準を考えるとやはり、省燃費・環境基準をクリアした最新型建設機械の順次増車を目指していかなければならないと考える。利益確保と環境配慮を両立させるために、施工の際には効率よく重機稼働ができるよう、社内研修・指導も検討していく。

又、本社1階作業場の水銀灯を全てLED照明へと更新したため、省エネ効果が期待される。今後も事務所内等のLED照明移行を推進していきたい。環境経営方針、環境経営目標、環境経営計画・実施体制について、見直しした結果、現時点では変更の必要は有りません。

評 価 日：2024年2月22日
代表者氏名：坂本 幸誠